

伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第 29 回 まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2026 年 5 月 21 日(木)			
開催時間	開会	9:30	閉会	11:00
開催場所	市役所 3 階 303 会議室			
出席者				
協議会・WG メンバー	会場：黒河内貴氏 O L：政金裕太氏、瀧内貫氏			
事務局・職員	会場：企画部企画政策課 井口大輔課長、有賀慎課長補佐 村田和也新産業技術推進係長 地域創造課まちづくり推進係 林岬汰主事			
関係者				
欠席者	志知貴文氏、鈴木孝之氏、細谷啓太氏、土田智氏			
議事	1、6/28(日)の「対話・つながり・実現の場」について 2、日本福祉大学との連携について 3、オブザーバーの参加について			

議事項目	概要	次のステップ
1、6/28(日)の「対話・つながり・実現の場」について		
6/28(日)「対話・つながり・実現の場」の内容について	○事務局 ー6/28(日)開催の「対話・つながり・実現の場」について決まっていること、決めたいこと の説明ー <前回 WG で話し合ったスケジュール案> 10min これまでの WG の取組 15min 公共空間の使い方、Park(ing)Day の概念 5min Break 20-30min 講義 1 塩尻市の取組 20-30min 講義 2 伊那市の取組 5min Break 40-50min ワーク（この場所だったらこんなことをしてみたい地図を作る） 15min 発表 10min 今後の予定、計画 ・当日テーブルに置く地図として、まちなかエリアの航空写真に筆界と地番を重ねたものを用意できる。 ○WG メンバー ・公共空間の使い方について、いなまち朝マルシェメンバーにどこまでお話いただけるかは相談しなければならない。	

ワークの内容について	・今回は講師同士の対談はなくてよいと思う。ワークまでの時間が長すぎると参加者が飽きてしまう。講師の方には、ワークの後に全体の講評をいただいてはどうか。 ○WG メンバー ・ワークのとき、テーブルごとにエリアを分けるとすれば、「ここではこんな取組が行われている」等、各エリアの特徴について説明があった方がよい。 ○WG メンバー ・すでに具体的にどこで何をやりたいということがある人からは多様な意見を出してもらえるだろうが、そうでない人は、直前に聞いた塩尻市等の取組に似たことを思い付くのが自然な流れである。 ・そういった意味で、エリアごとの特徴のインプットがあると考える材料になる。 ○WG メンバー ・前半の講義を受けて「公共空間ってそういう風に見えるのか!」というインプットになればよいが、紹介された取組内容に引っ張られると伊那市らしい取組が出てくるか心配である。「使えそうな場所はどこか」、「どこにどんな人が来てほしいか」というテーマで話し合うと、「じゃあ何があればよいね」という話につながっていくと思う。 ・古地図を用意して、地域の歴史と重ね合わせることができると発想が広がるのではないか。 ○WG メンバー ・自分の研究室に、昭和 57 年に国土地理院が作成した伊那市の地図がある。大きくて全部広げたことはないが、「対話・つながり・実現の場」で広げて置いておくのも面白いと思った。昔過ぎないので話の種になると思う。 ○WG メンバー ・時間内に具体的な取組を考えなければならないことに囚われると、発想の幅が狭くなってつまらなくなる。「どんな人に来てほしいか」、「どんな場所になったらよいか」という問いで発想を広げた方がよい。紹介された取組事例に縛られるのもよくない。 ○WG メンバー ・市として、具体的なアイデアが出てきてほしい場所などはあるか。 ○事務局 ・セントラルパークや山寺駐車場について面白いアイデアが出てくるとよい。	
-------------------	---	--

	○WG メンバー ・伊那北駅周辺は、今後駅前広場を整備したとしてもあきらかに居場所が足りない。電車を待つ間に落ち着いて話をする場所すらない。雑草が生えた殺風景な駐車場の景色はなんとかしないとイケない。 ○WG メンバー ・楽しく話していたら、具体的にアイデアが出てきてほしい場所にたどり着いているのがよい。 ・イメージしやすいのはセントラルパークや、いなっせ周辺、高校生なら駅周辺であろう。それらの場所同士がつながるにはどういうコト・モノがあるとよいかというテーマがよいかもしれない。 ・各テーブルに御代田町の「みよたの広場」など全県の面白い事例紹介を置いておくと参考になるかもしれない。 ・テーブルごとに3つくらいの問いを決めてしまうのもよいかもしれない。 ・1つ目は「セントラルパーク等の駐車場をどうするか」、2つ目は「Park(ing)Day で何をやりたいか」、3つ目は「その他」で Park(ing) Day ではないけれどこの WG で実施していくことの種が見つかればよい。 ・2つ目、3つ目の問いに対して、セントラルパークや山寺駐車場、伊那北駅周辺の話が出ればよいが、ファシリテーターが誘導するかどうかで建付が決まってくる。 ○事務局 ・セントラルパーク、山寺駐車場、伊那北駅周辺に誘導する必要はない。やりたいことが出た段階で終わってしまってもよいと思っている。 ○WG メンバー ・セントラルパークや伊那北駅といったランドマークがすでにあり、ランドマークとランドマークがつながるためには、どんな風景が必要かをみんなで思い描いてもらい、その風景を達成するためには、どういったコト・モノがあるとよいかを場所ごとに具体的に対話してもらうワークがよいと考えている。 ・そうすると、ランドマークや人が集まる場所が最初から地図に落ちていて、その間を紡ぐように「ココが使える！」という場所をみんなで探して色を塗ってもらうというのが第一段階で、第二段階でその場所に何があるとよいかを対話するという流れがよいと思う。	
--	---	--

	○WG メンバー ・すでにあるコト・モノについては地図上に付箋を貼っておき、地図を面白いことで埋めていくというワークになると想像した。 ・ワークの最後 10 分くらいで、「では実際にみなさんができることは何ですか？」を対話してもらう。 ・「参加者ができること」、「これがあつたらまちなかを歩く」という 2 つのテーマで地図上をどんどん埋めていくイメージだと思う。 ○WG メンバー ・ワークで対象とするエリアは北はきたっせ、南は伊那部宿、東は天竜川、西は JA 伊那支所のあたりと思っているがどうか。 ○WG メンバー ・エリアはよいのではないか。全体の大きな地図と、パソコンを用意して細かいところはグーグルマップなどで確認するやり方もありだと思う。 ・ワークでは、少し大きめの問いで対話を行い、具体的にこの敷地で何をするという問いでは対話をしない方がよいという方向になったかと思うが、テーブルごとの対話がうまくできるか不安である。 ○WG メンバー ・例えば木陰のある道路、座るスペースがたくさんある駐車場といったヒントを用意した方が参加者がイメージしやすいのか、ヒントを出すことで新しく面白い意見が出にくくなってしまうのか迷っている。 ・最初に使えるような場所に色を塗る。次にそこにどんなコト・モノがあればランドマークとランドマークがつながるかというステップがあり、最後に実際に何かできることがある人は話してくださいというような流れでワークが進んでいくイメージである。 ・色を塗ってもらうときにも公共空間に色を塗ってくださいという指示を出すのか、使えるような場所に色を塗ってくださいと指示を出すのかも迷っている。 ○WG メンバー ・普段まちなかを歩いている人は色を塗れる気がするが、そうでない人はなかなか塗れないのではないかと心配である。 ○WG メンバー ・指示の仕方によって色を塗れる人塗れない人はいると思う。例えば建物がない土地にはすべて色を塗りましょうという指示の仕方もあると思う。 <決まったこと>	
--	--	--

「対話・つながり・実現の場」の内容で決まったこと・決まっていないこと	・タイトルに「まちなか作戦会議」は残す。 ・サブタイトルについては、いくつか候補を考えてスラックに挙げ、メンバーから意見をいただく。 ・スケジュールは以下の案をベースとして進める。 ―― スケジュール案 ―― 10min これまでのまちなかワーキングの取組 15min 公共空間の使い方、Placemaking、Park(ing) Day などの概念の紹介 30min 塩尻の取り組み 30min 伊那の取り組み 5min break 45min 地図を見ながら、この場所にどんなコト・モノがあるとよいかを載った地図を作るワーク 15min 発表 ----- ・講師をお願いしたい方のご都合について早急に確認し共有する。 ・ワークの内容は、ランドマークが記された地図を元に、ランドマークとランドマークがつながるために必要な風景を思い描き、その風景を達成するためには、どういったコト・モノがあるとよいかを対話する。 ・ワークの手順は、 - Step1:ココ使えそうという場所にみんなで色を塗る。 - Step2:ソコにどんなコト・モノがあるとよいかをみんなで対話する。 - Step3:参加者にできることは何かを挙げてもらう。 ・ワークの結果として、Park(ing)Day でやりたいこと、Park(ing)Day でなくてもこの WG で取り組んでいくことが挙がり、Park(ing)Day を一緒にやる仲間ができることを目指す。 ・ワークの成果物は、「参加者ができること」、「こんなコト・モノがあったらまちなかを歩く」で埋まった地図 ・ワークのタイトルについても、いくつか候補を考えてスラックに挙げ、メンバーから意見をいただく。	
2、日本福祉大学との連携について		
現状報告	○事務局 ・日本福祉大学とまちなかエリア高度化 WG で連携していくことは双方合意している。 ・日本福祉大学の活動に協働のまちづくり交付金の活用を提案した。	

	・ 6/28(日)「対話・つながり・実現の場」には学生も参加してもらえる。 ・ 7 月、8 月に 1 回ずつ予定されている日本福祉大学のワークショップの日程はまだ決まっていない。	
3、オブザーバーの参加について		
	○WG メンバー ・ 10/31(土)の Park(ing)Day に協力してくれそうで興味を持っている人がいれば 6/28(日)「対話・つながり・実現の場」にお誘いしてもよいか。自分でベンチなども作れて仲間も集められる人として思い浮かぶ人がある。 ○WG メンバー ・ 「対話・つながり・実現の場」だけでなく是非 WG にも参加してもらえればと思う。	

■今後のスケジュール

<次回 WG>

- ・ 日時 6 月 3 日(水) 10:00～
- ・ 会場 市役所 5 階 501 会議室（オンライン会議併用）

<次回「対話・つながり・実現の場」>

- ・ 日時 6 月 28 日(日)14:00～
- ・ 会場 伊那市産業と若者が息づく拠点施設 allla（アルラ） 多目的室